Takashima City Public Relations

広報たかしま

9
1日号
平成21年
No.98

雨雲をも吹き飛ばす大盛り上がり
「2009たかしま夏まつり　第3回 YOSAKOIまつり in 高島」で

【特集】高島市健康増進計画「健康たかしま21プラン」を策定　❷ー❺

目次

お知らせ拡大版 …… ❻ー❾
タウントピックス …… ❿
みんなで5・7・5 …… ⓫
消費生活相談・省エネ …… ⓬
教育委員会 information …… ⓭
健康生活 …… ⓮
びょういんだより …… ⓯
暮らしの情報 …… ⓰ー㉑
国保年金あらかると …… ㉒・㉓
そうだ図書館に行こう♪ …… ㉔
窓口だより …… ㉕
歴史散歩 …… ㉖

広報たかしま 9 1日号 平成21年 No.98

■発行／高島市　編集／企画部秘書広報課
〒520-1592 滋賀県高島市新旭町北畑565番地
☎0740(25)8000(代)
http://www.city.takashima.shiga.jp
t-info@city.takashima.shiga.jp

秋の収穫に使用した民具

市内各地では稲刈りの時期を迎えています。現在は、ほとんどの農家がコンバインなどの機械を使って稲刈り・脱穀を行っていますが、わずか50年程前は、こうした収穫の作業はほとんど機械化されず、人々の経験と知恵で編み出された道具を使って人力で行われていました。

機械が導入される以前の収穫の作業は、地域や時代によって違いはありますが、おおよそは鎌を使って人の手で行う稲刈り、その稲を稲木に干して乾燥させた後、稲から籾（もみ）をはずす脱穀、そして籾の皮を剥く籾摺（もみす）りという手順で進められました。この中の脱穀の作業のためには、早くからさまざまな道具が考案されてきました。

江戸時代はじめ、脱穀のために使われたのはコキバシ（扱箸）と呼ばれた道具で、これは大型の竹の箸のようなものに稲穂を挟んで籾をしごき取るというものでした。このコキバシに変わる道具として元禄時代（1688～1704）に和泉国（現大阪府南西部）で考案されたといわれるのがセンバコキ（千歯扱）で、これは木の台の上に鉄または竹製の櫛（くし）状の歯を水平に並べたもので、台に付いた足置きを踏んで本体を固定しながら、歯の上に稲束をたたきつけ、その稲束を引き抜いて籾を落とす、という仕組みのものでした。少しずつ稲穂を挟みながら作業をするコキバシに比べ、稲束のまま脱穀ができるセンバコキの登場は画期的で、これによって脱穀の能率は飛躍的に向上したといわれています。センバコキは江戸時代末期から明治時代にかけて、改良を経ながら長い間全国各地で使用されました。

▲センバコキ

その後、登場したのが足踏み脱穀機で、これは明治時代末に考案され、大正時代初期には全国に普及したといわれています。足踏み脱穀機とは、木または鉄製のドラムに逆V字型の太い鉄条の歯がさしてあるもので、ドラムを足踏みペダルで回転させて、そこに稲束をあてて脱穀をするというものでした。この足踏み脱穀機は、センバコキよりも脱穀をさらに効率よくさせるもので、戦後まで全国各地で使用されました。

動力による脱穀機が登場したのは昭和30年頃で、昭和50年頃のコンバインの登場で、収穫作業の機械化はさらに進み、現在に至っています。

ところで、皆さんは写真のセンバコキや足踏み脱穀機を実際に見たことがありますか。おそらく足踏み脱穀機ですと「昔は使っていた」という記憶のある方も多いのではないでしょうか。マキノ資料館では、こうした少し前の農作業で使われていた民具や生活道具などを展示しています。また、現在は展示室の一部を利用して、昔ながらの暮らしや地域の歴史を学ぶための参考図書が閲覧できるコーナーを設けています。身近な地域の歴史に少し触れてみようというときは、ぜひマキノ資料館にお越しください。（文化財課）

▲足踏み脱穀機

編集後記

今年は、日本で46年ぶりの皆既日食がありました。高島市ではどっしりと居座った梅雨前線の雲に阻まれ、世紀の天体ショーとはなりませんでしたが、一瞬だけ雲の切れ間から欠けた太陽が顔をのぞかせました。今年の梅雨は、本当に長かったですね。新聞によると去年より22日、平年よりも15日も遅く、観測史上最も遅い梅雨明けになったそうです。明けてからも雲が多く、じめじめした日がお盆まで続くとは、今年はなんとも太陽が恋しい夏になりました。長い夏休みが終わり、子どもたちの学校生活も再開。生活のリズムと身体を早く学校モードに切り替えて、2学期に臨んでほしいものです。夏休み期間中、居間に居座った前線もようやく動き出しますね。（広報担当O）

R100 古紙パルプ配合率100%再生紙を使用。
PRINTED WITH SOY INK 大豆インクを使用しています。